

令和7年度 養護教諭部会研究計画

I. 研究主題

健康について考え、心豊かに自分らしく生きる子どもの育成をめざして

II. 研究目的

1. 研究の経過

平成26年度からこの研究主題のもと、各ブロックは子どもたち個々の健康・発達課題に寄り添い、対応や支援の在り方を研究し実践してきた。しかし、令和2～4年度については新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ブロックの部会や第二次研究協議会、理論・実技研修会を以前のような形式で実施できず、活動を十分に行うことが難しい3年であった。こういった状況の中でも、本来2年の研究計画を3年に延ばし、研究の内容や方法を試行錯誤しながら研究を深めることができた。今後は、コロナ禍が続きこれまで私たちが感じてきた子どもたちの健康・発達課題が一層顕著になっていることを踏まえ、子どもたちが自分らしく生きる力を育むために、養護教諭の特性を生かした効果的な実践と発信が必要であると考えた。

令和6年度は、2年継続研究の2年次目まとめの年度としてブロックの研究を中心に研究を進めてきた。また新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、参集しての活動が可能となり研究を深めることができた。令和7年度は、新たな研究の1年次目となるため各ブロックの研究を進め、その成果を全会員で共有するなど、拡がりをもった視点で研究を推進していきたい。

2. 主題設定の理由

近年の社会環境や生活様式や子どもたちの学習環境の変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与え、健康課題を多様化させている。

特に、ICT（情報通信技術・通信技術を活用したコミュニケーション）関連機器がめざましい発展を続け、大人だけではなく子どもたちにも広く浸透し、授業でのICT教育の拡充がさらに進んでいる。しかし便利である一方で、情報の氾濫によって不確かな情報に翻弄されたり、SNSによるトラブルも多く見られる。また、視力低下や直接的なコミュニケーションの不足による人間関係の希薄化等、デジタル化による心身の健康上の新たな課題が出てきている。

また、コロナ禍の学校生活で制限を余儀なくされた子どもたちへの心身の影響は計り知れない。本来なら触れ合って遊び、顔を合わせて語り合い、協働して何かを創り上げる活動が制限され、集団での達成感や信頼感、自己肯定感を高める教育が難しくなっている。そのような中、不登校傾向の子どもが増加、子どもの貧困やヤングケアラー・虐待等、見えないところで苦しんでいる子どもたちの問題も増加傾向にある。さらに、バリアフリーや特別支援、LGBTQ等へ配慮した教育環境づくりがなかなか進まない現状もあり、改善が急務である。

このように複雑で変化の激しい社会の中、養護教諭として子ども一人一人を大切に受容し、職務の特性を生かした対応や支援の在り方を探求することが重要と考える。常に「養護」とは何かを問い続け、子どもの健康と人権を守り育てる養護実践を深めていく。また、確かな連携方法を模索し、家庭や地域社会・教職員に対する効果的な情報発信の方法を検討し、様々な健康課題について家庭と学校が課題を共有しながら学校全体・地域社会全体で対応していく必要がある。

以上のように、複雑かつ多様化した子どもたちの健康課題に対し養護教諭の視点を大切にしたい取組が必要と考え、標記の研究主題を設定した。

Ⅲ. 研究内容

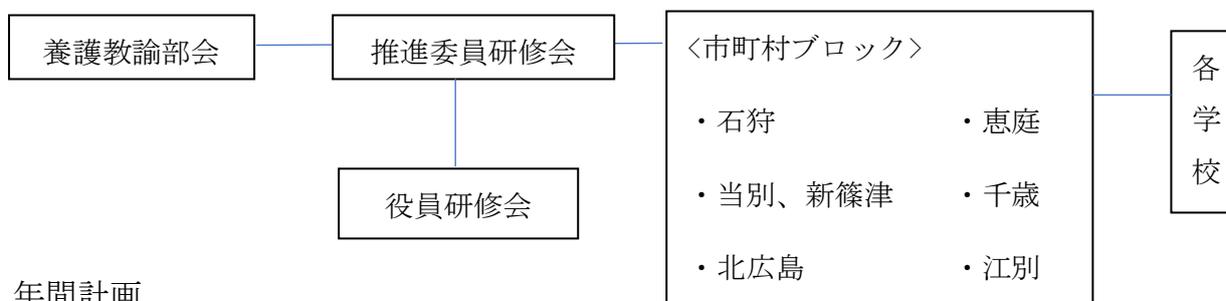
<p>《研究内容 1》</p> <p>子どもたちの実態を把握し問題点を明確にする。</p>	<p>《研究内容 2》</p> <p>子どもたちが自己肯定感をもち、自分らしい選択をし、人とのつながりを大切にしながら生きていけるよう支援の在り方を検討する。</p>	<p>《研究内容 3》</p> <p>保健室で気が付いた子どもたちの実態について、教職員・家庭・社会にどのように発信し連携していくのか、その方法を検討する。</p>
---	---	--

Ⅳ. 研究方法

1. 会員一人一人の日常実践に基づいた市町村ブロックの共同研究を推進する。
 令和 7 年度は、ブロックで研究に取組ことになるので、課題を明らかにし研究の基礎をつくり上げていく年度とする。
2. 実技研修会及び理論研修会を開催し、日常実践や今日的な課題解明につなげていく。
3. 各ブロック間の連携を深め、より一層、研究が深まる取組をする。
 部会・ブロック情報やホームページを通して会員及びブロックの交流を図るとともに研究に関する情報の充実に努める。

Ⅴ. 研究体制（組織）

1. 役員研修会は、部長・副部長・事務局長・事務局次長・研究員各 1 名の計 5 名で構成する
2. 推進委員研修会は、市町村ブロックより各 1 名と、役員 5 名の計 11 名で構成する
3. 研究推進のための組織を明確にし、連携を図りながら研究を推進する。



Ⅵ. 年間計画

月	研修会・その他	内 容
4 月	役員研修会①・推進委員研修会①	研究計画の確認、実技研講師打合せ
	専門部会第一次研究協議会	実技研修会・理論研修会の計画
5 月	役員研修会②・推進委員研修会②	研究推進、二次研究協議会について、部会情報発行①
6 月	役員研修会③	実技研事前打ち合わせ、理論研講師打ち合わせ
7 月	実技研修会	
	役員研修会④・推進委員研修会③	第二次研修協議会について、ブロック情報発行①
9 月	役員研修会⑤・推進委員研修会④	第二次研究協議会の開催要項と運営、部会情報発行②
10 月	第二次研究協議会・理論研修会	
11 月	役員研修会⑥	第二次研究協議会反省と見解 次年度実技・理論研修会講師選定
1 月	役員研修会⑦・推進委員研修会⑤	研究・研修会運営の反省、ブロック情報発行②
3 月		次年度研究計画、部会情報発行③